



消防功勞 元一関市消防監

岩淵盛一さん

いわぶち・せいいち 66 花泉町

岩淵さんは1967年、花泉町消防団常備部団員に。72年の両磐地区発足時に、消防士の道を歩み始めました。高齢者対策室長、通信指令課長、消防課長、防災安全対策監などを歴任。中でも、93年から検討が始まり、95年に運用が開始された消防緊急通信指令施設の立ち上げなどに尽力し、火災や救急などの一元処理を可能にしました。「人の役に立ちたくて必死に働いた41年だった」と振り返り、「受章は、家族、先輩や後輩の支援のおかげ」と感謝します。「災害は、いつ起こるかわかりません。これからは、公民館活動などを通して、地域の防災に取り組みたいです」と話していました。



岩淵さんは1967年、花泉町消防団常備部団員に。72年の両磐地区発足時に、消防士の道を歩み始めました。高齢者対策室長、通信指令課長、消防課長、防災安全対策監などを歴任。中でも、93年から検討が始まり、95年に運用が開始された消防緊急通信指令施設の立ち上げなどに尽力し、火災や救急などの一元処理を可能にしました。「人の役に立ちたくて必死に働いた41年だった」と振り返り、「受章は、家族、先輩や後輩の支援のおかげ」と感謝します。「災害は、いつ起こるかわかりません。これからは、公民館活動などを通して、地域の防災に取り組みたいです」と話していました。



鉄道業務功勞 元国鉄職員

佐藤哲郎さん

さとう・てつろう 78 山目

宮城県金成生まれ。高校卒業後、1954年に国鉄入社。宮城県気仙沼駅を皮切りに、36年間、鉄道の運行管理と乗客の安全輸送に努めました。陸前高田駅では、60年5月24日のチリ地震津波に遭遇し、津波の怖さを目の当たりにしました。久慈線（現三陸鉄道北リアス線）の線路が大雨で流された時、昼夜4日間にわたる復旧工事は今でも記憶に残ります。「常に事故が起きないように心掛けた。お客さんに迷惑をかける出来事を起こさなかったことが誇り」と胸を張ります。「先輩や後輩の協力、支えてくれた家族があつての受章。本当に感謝している」としみじみ語りました。



宮城県金成生まれ。高校卒業後、1954年に国鉄入社。宮城県気仙沼駅を皮切りに、36年間、鉄道の運行管理と乗客の安全輸送に努めました。陸前高田駅では、60年5月24日のチリ地震津波に遭遇し、津波の怖さを目の当たりにしました。久慈線（現三陸鉄道北リアス線）の線路が大雨で流された時、昼夜4日間にわたる復旧工事は今でも記憶に残ります。「常に事故が起きないように心掛けた。お客さんに迷惑をかける出来事を起こさなかったことが誇り」と胸を張ります。「先輩や後輩の協力、支えてくれた家族があつての受章。本当に感謝している」としみじみ語りました。



地方自治功勞 元一関市収入役

佐藤正勝さん

さとう・まさかつ 70 山目

佐藤さんは、1967年に一関市役所入庁。選管事務局次長、一関地方衛生組合事務局長、税務課長、両磐地区消防組合消防長などを歴任。99年10月から2005年の市町村合併を挟み、09年10月まで3期10年にわたり、収入役を務めました。「市も取引の当事者。支払いはとにかく早くするよう心がけた」と振り返ります。在職中は、市長を補佐し、市町村合併、岩手・宮城内陸地震など大きな出来事にも対応しました。「今回の受章は、多くの皆さんのご教示、同僚、後輩のご協力のおかげ」と感謝の気持ちを示し、「安心して安全なまちづくり、そして世界に羽ばたく一関の進展を願っています」と語りました。



長年にわたって各分野の進展に尽力してきた人たちがいます。その功績が認められて、平成26年春の叙勲と褒章を受章しました。

## 一関市から7人が受章



## 危険業務従事者叙勲



防衛功勞 元3等海尉

藤野良一さん

ふじの・りょういち 61 千厩町

藤野さんは、地元の高校を卒業後、1971年に海上自衛隊に入隊しました。2006年に定年退職するまで京都府の舞鶴地方隊を中心に護衛艦などで勤務し、海上の安全維持に尽くしました。主にタービンエンジンと呼ばれる動力の機関を担当。艦船では、訓練の連続で曜日の感覚がなくなることもあったといいます。また、任務は、半年間に及ぶこともあり「体力的にも精神的にも苦しいときがあった」と振り返ります。今回の受章に「めったにいただけるものではない」と素直に喜び、「家内には家にいられないことも多く、苦勞をかけた」と内助の功に感謝しています。



藤野さんは、地元の高校を卒業後、1971年に海上自衛隊に入隊しました。2006年に定年退職するまで京都府の舞鶴地方隊を中心に護衛艦などで勤務し、海上の安全維持に尽くしました。主にタービンエンジンと呼ばれる動力の機関を担当。艦船では、訓練の連続で曜日の感覚がなくなることもあったといいます。また、任務は、半年間に及ぶこともあり「体力的にも精神的にも苦しいときがあった」と振り返ります。今回の受章に「めったにいただけるものではない」と素直に喜び、「家内には家にいられないことも多く、苦勞をかけた」と内助の功に感謝しています。



生活衛生功勞 日本理容美容教育センター理事長

鈴木正壽さん

すずき・まさひさ 65 真柴

鈴木さんは東京出身。家業が理容店だったこともあり、理容美容の道を選択。1983年に東北ヘアモード学院長就任の際に一関市へ移住。30年以上にわたり、理容美容業界を目指す学生の育成に取り組んできました。94年からは東北地区理容美容学校連絡協議会長を務め、2008年には日本理容美容教育センターの理事長に就任。温故知新をモットーに「実社会の厳しさを乗り越えられる人間性を高めることが大切」と学生に伝えています。受章にあたり「支えてくれた人や、高齢となった母や家族が喜んでくれたことがうれしい。これからも業界の発展に尽くしたい」と決意を新たにしていました。



鈴木さんは東京出身。家業が理容店だったこともあり、理容美容の道を選択。1983年に東北ヘアモード学院長就任の際に一関市へ移住。30年以上にわたり、理容美容業界を目指す学生の育成に取り組んできました。94年からは東北地区理容美容学校連絡協議会長を務め、2008年には日本理容美容教育センターの理事長に就任。温故知新をモットーに「実社会の厳しさを乗り越えられる人間性を高めることが大切」と学生に伝えています。受章にあたり「支えてくれた人や、高齢となった母や家族が喜んでくれたことがうれしい。これからも業界の発展に尽くしたい」と決意を新たにしていました。



消防功勞 元一関市消防団分団長

佐藤茂昭さん

さとう・しげあき 73 花泉町

佐藤さんは1964年、当時の花泉町消防団に入団。2001年に分団長に就任しました。市町村合併に伴って、一関市消防団の花泉地域本部長に。13年の退団まで、自分たちの地域は自分たちで守ると強い信念を持ち、地域の安全と安心のため防災活動に取り組ましました。「最近では地域の専業農家が減り、日中は留守の家が増えた。日頃から火の取り扱いは十分注意してほしい」と話し、受章については「市町村合併時は消防団の組織体制について苦勞もあった。家族はもとより、消防団の仲間たちの協力があったからこそ」と感謝していました。



消防功勞 元一関市消防団副団長

金野忠三さん

こんの・ただみ 69 室根町

金野さんは、1965年に地域消防団の熱心な誘いを受けて室根村消防団に入団。建築業の傍ら、精力的に消火活動や災害訓練に取り組んできました。2005年8月からは室根村消防団長、06年4月からは一関市消防団副団長として、常に住民の生命と財産、団員の安全を守ることを念頭に指揮を執りました。「最近では若い地域団員が減少し、高齢化も進んでいる。地域防災の維持が大切」と消防団の重要性を訴えます。「火災訓練などで、子供の運動会に参加できないこともあった。家族には苦勞をかけた。この叙勲は多くの人の支えによるもの」と感謝を伝えていました。

